

兵庫県県民生活審議会

平成 22 年度第 3 回参画・協働推進委員会 議事要旨

- 1 日 時 平成 22 年 12 月 13 日 (月) 15:00 ~ 16:30
- 2 場 所 県民会館 7 階会議室「ぼたん」
- 3 参加者 委員：小西委員長、有元委員、北野委員、山下委員
県側：梅谷県民文化局長、鬼本県民生活課長、川村地域協働課長、
宮崎地域協働課副課長、有吉参画協働係長、ほか関係職員
- 4 議 事 (1)「参画と協働関連施策の 5 カ年の報告」案について
(2)「地域づくり活動支援指針」「県行政参画・協働推進計画」
見直し素案について
(3)その他
- 5 主な内容
 - ・ 5 カ年の報告の『明らかになった課題』のところは、課題だと書かれている施策を行っている行政の当事者がそのことを正しく認識しているのか。ひょうごボランティアプラザ等の当事者からも話を聴いてとりまとめる必要があるのではないか。(A 委員)
 - ・ 指針・計画をパブリック・コメントにかけるときに、当事者に再度確認することは出来る。(事務局)
 - ・ 高砂ではパワーアップ事業や県民交流広場事業、子どもの見守り、地域のふれあいの大会といった場面で、自治会が非常に積極的に関わってくれるようになっている。5 カ年の報告の『担い手の育成』の記載は、そういった自治会が良い意味で前に出だしたことを踏まえて書かれた方がいい。(B 委員)
 - ・ 今の世の中であればこの 5 カ年の報告をもとに、今後 5 年間の指針・計画でいいのだろうが、何か途中で問題が出てきた時に、5 年後の見直しでは遅いのではないか。21 世紀ひょうご長期ビジョンとの兼ね合いがあるとは思いますが、ある程度予測される事態に対しては手を打っておくという視点で計画が作れればと思う。(C 委員)
 - ・ 指針・計画については、毎年参画と協働の取り組み状況とそれを踏まえた今後の方向性を示す年次報告を作成する中で見直しを検討すれば良いのではないか。(A 委員)
 - ・ 昨年の年次報告で取り上げた県西・北部豪雨被害の関係では、現地に入られたボランティアの方をうまくさばけないといった、地元としての情報伝達やコーディネート体制の不足が明らかになった。そのため、今年度ボランティアプラザでそういった災害への対応を強化するという施策が出来ている。課題につい

ては年次報告に落としただけであれば次の年度からでも対応できる状態にある。
(事務局)

- ・ 5カ年の報告『県民の意識と実態』の地域別・活動への取り組み状況と、活動の動機は面白い結果が出ている。意識レベル、参画と協働の地域づくり活動への関わりのレベルで地域差が出ている。こうした結果は市町との役割分担のところで地域特性の配慮という形で反映されているが、県全体としての参画と協働の取り組みについても、全県同じメニューではなくて兵庫県の中の多様性に配慮して地域に合わせた政策展開を考えていく必要があるのではないか。(D委員)
- ・ 5カ年の報告『地域づくり活動に必要な行政の支援』のグラフでは、活動している県民と無作為抽出した県民とを対比していて非常に面白い結果が出ている。無作為抽出した県民の回答では気軽に参加できる研修や体験機会の提供、活動への参加を呼びかける啓発、支援策や活動ノウハウなどに役立つ情報の提供がかなり高い数値で出ているが、他方で活動している県民の回答では活動資金の提供が飛び抜けて多くなっている。こうした結果を今後の取り組みに反映させると良いのではないか。(D委員)
- ・ 地域によって自治会が活発なところもあれば婦人会が主になって活動しているところもある。そういう意味での地域特性を活かせるように、県の支援策も画一的ではなく自由度を高める必要がある。(A委員)
- ・ 若者がすでにNPOなど地域とは違うところで動いているのに、指針・計画では自治会や団塊世代といったこれまでの地域活動をベースに考えている。活動のPRが不足していると、活動している県民と無作為抽出した県民の両方が言っているのだから、10代20代が地域づくりに今から入っていくために何か手を打っておいた方が良いのではないか。単身世帯の増加が確実視されるなか、独身の若い世代が今のうちから少しでも地域の中で活動しながら誰かと知り合いつながっていくことで、将来単身であったとしても周りの横の人とつながっているから安心して暮らせると思える。そうすれば少しは今後のことも踏まえた計画として生きてくるのではないか。(C委員)
- ・ 資料4の指針・計画の10ページに多世代の参画を促すということで、若い世代の活動への参加を推進するということも盛り込んではいいる。(事務局)
- ・ 参画・協働はそれほど進んでおらず、まだまだ基礎体力を付けなくてはいけないのが現状だから、指針・計画については3年や5年で大きく変えるよりは、基本的な枠組みをもうしばらく継続して、体力づくりに努めた方がいい。(D委員)
- ・ 指針・計画について微修正を加えるならば、高齢化、人口減少、団塊世代、どの問題にしても、地域差は如実に出て来るから、全県で考えてきた事柄を少し地域的な仕様に移すことは必要ではないか。(D委員)

- ・ 資料4の指針・計画の5ページの『基本的な考え方』に、人口減少や高齢化に対する記載が適切にされている。これ以上は今の段階では書きようがないのではないか。(B委員)
- ・ 次の年次報告を作成する際に、今回しなかった角度からも分析をして付け加えれば良いのではないか。(B委員)
- ・ 県民意識調査の結果をとりあえず5カ年の報告に間に合わせるように入れたけれども、来年度、地域協働課だけではなくて関係する課も含めて丁寧に分析すると面白いし、今後の取り組みにも使えると思う。(D委員)
- ・ 本日の議題についてお気づきの点があれば、パブリック・コメントを来年1月に予定していることから、年内にご意見を頂戴し、合わせて欠席委員お二人にもご意見を伺う。(事務局)
- ・ パブリック・コメントの対応案等については事務ベースで整理をさせていただき、委員の皆さまには結果発表の前にその案を送らせていただく。(事務局)